

定期作況報告

平成19年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬は平年並み、中旬は平年より極めて低く、下旬は平年並みであった。日平均気温の月平均は2.8℃で平年より-1.6℃と低かった。降水量は上・中旬は平年並みで、下旬は平年より少なく、月合計は42.0mmで平年並みであった。日照時間は上旬は平年よりやや短く、中旬は平年よりやや短く、下旬は平年よりやや長く、月合計は157.6時間で平年並みであった。

5月：平均気温は上旬は平年より高く、中旬・下旬は平年より極めて低かった。日平均気温の月平均は9.0℃で平年より-1.5℃とやや低かった。降水量は上旬は平年より多く、中旬は平年より極めて多く、下旬は平年よりやや多く、月合計は104.5mmであり、平年より多かった。日照時間は上順は平年並み、中旬は平年より短く、下旬は平年並みであり、月合計は120.2時間で平年よりやや短かった。

6月：平均気温は上旬は平年より極めて高く、中旬は平年よりやや高く、下旬は平年並みであった。日平均気温の月平均は16.3℃で平年より+1.5℃とやや高かった。降水量は上旬は平年より少なく、中旬は平年より多く、下旬は平年より極めて高く、月合計は91.5mmであり、平年より多かった。日照時間は上旬は平年より長く、中旬は平年よりやや長く、下旬は平年より短く、月合計は153.1時間で平年並みであった。

7月：平均気温は上旬は平年よりやや低く、中旬は平年より極めて低く、下旬は平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は16.2℃で平年より-2.1℃と低かった。降水量は上・中旬は平年より少なく、下旬は平年よりやや多く、月合計は74.0mmであり、平年よりやや少なかった。日照時間は上・中旬は平年より長く、下旬は平年よりやや長く、月合計は185.1時間で平年より長かった。

8月：平均気温は上旬は平年よりやや高く、中旬は平年より高く、下旬は平年よりやや高かった。日平均気温の月平均は20.9℃で平年より+1.6℃と高かった。降水量は上旬は平年よりやや多く、中・下旬は平年より少なく、月合計は71.5mmであり、平年より少なかった。日照時間は上旬は平年より短く、中旬は平年並み、下旬は平年より長く、月合計は147.2時間で平年並みであった。

9月：平均気温は上旬は平年並み、中旬は平年よりやや高く、下旬は平年並みであった。日平均気温の月平均は15.6℃で平年より+0.6℃とやや高かった。降水量は上旬は平年より極めて多く、中旬は平年よりやや少なく、下旬は平年より少なく、月合計は156.0mmであり、平年よりやや多かった。日照時間は上・中旬は平年よりやや短く、下旬は平年並みであり、月合計は116.7時間で平年並みであった。

10月：平均気温は上旬は平年よりやや高く、中旬は平年より低く、下旬は平年並みであった。日平均気温の月平均は8.4℃で平年並(-0.2℃)であった。降水量は上旬は平年より少なく、中旬は平年並み、下旬は平年よりやや多く、月合計は52.0mmであり、平年よりやや少なかった。日照時間は上旬は平年より長く、中旬は平年よりやや短く、下旬は平年並みで、月合計は169.1時間で平年並みであった。

11月：平均気温は上旬は平年よりやや低く、中旬は平年よりやや高かった。日平均気温の中旬までの平均は3.6℃で平年並(-0.4℃)であった。降水量は上旬は平年よりやや少なく、中旬は平年よりやや多く、中旬までの合計は29.0mmであり、平年並みであった。日照時間は上旬は平年並み、中旬は平年より極めて短く、中旬までの合計は81.7時間で平年並みであった。

注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

農耕期間中（5月～9月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

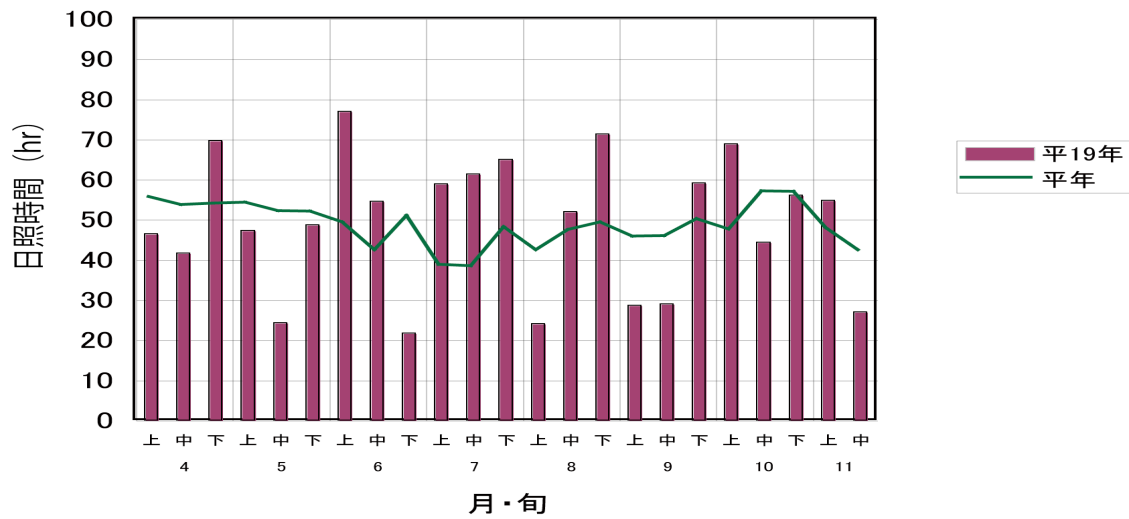
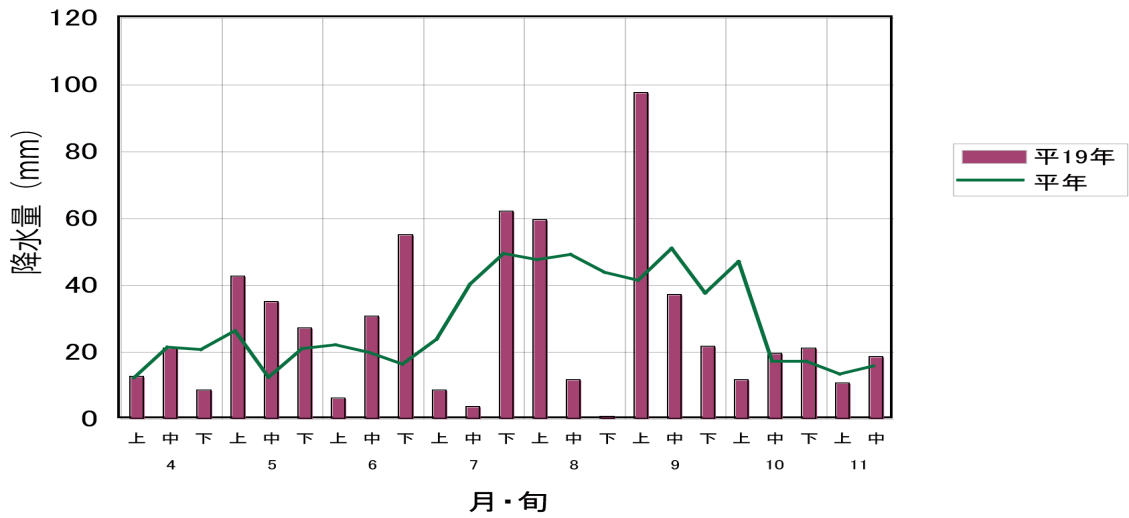
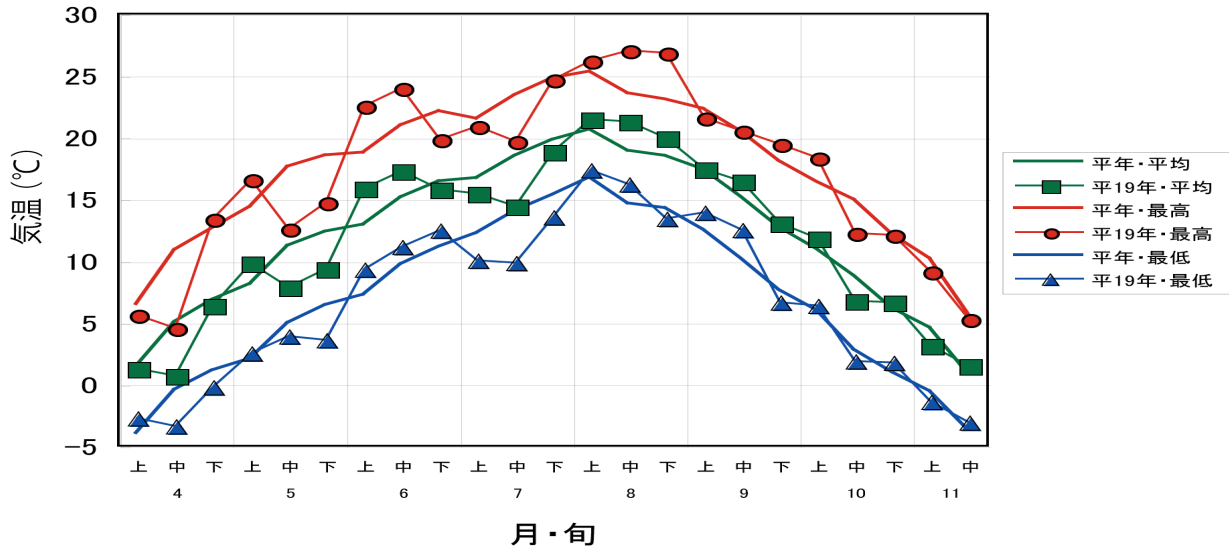
気温：5月は平年より低く、6月は平年よりやや高く、7月は平年より低く、8月は平年より高く、9月はやや高かった。この期間の平均気温の積算値は2389.3℃、平年より3.7℃高かった。

降水量：5月、6月は平年より多く、7月は平年よりやや少なく、8月は平年より少なく、9月は平年よりやや多かった。この期間の降水量の積算は497.5mmで、平年より6.0mm多かった。

日照時間：5月は平年よりやや短く、6月は平年並で、7月は平年より長く、8月、9月は平年並みであった。この期間の日照時間の積算は722.3時間で、平年より21.4時間長かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温、降水量、日照時間ともに、平年並みであった。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4 上	1.3	1.4	△0.1	5.6	6.4	△ 0.8	-2.8	-4.0	1.2	12.5	11.6	1	46.4	55.2	△ 8.8
	0.7	5.0	△4.3	4.5	10.8	△ 6.3	-3.4	-0.5	△ 2.9	21.0	20.8	0	41.6	53.3	△ 11.7
	6.4	6.8	△0.4	13.4	12.6	0.8	-0.2	1.1	△ 1.3	8.5	20.0	△ 11	69.6	53.5	16.1
5 上	9.8	8.1	1.7	16.6	14.3	2.3	2.5	2.0	0.5	42.5	25.6	17	47.3	53.8	△ 6.5
	7.9	11.2	△3.3	12.6	17.6	△ 5.0	3.9	4.9	△ 1.0	35.0	11.8	23	24.3	51.7	△ 27.4
	9.3	12.3	△3.0	14.7	18.5	△ 3.8	3.6	6.4	△ 2.8	27.0	20.3	7	48.6	51.6	△ 3.0
6 上	15.9	12.9	3.0	22.5	18.7	3.8	9.3	7.2	2.1	6.0	21.4	△ 15	76.9	48.9	28.0
	17.3	15.1	2.2	24.0	20.9	3.1	11.1	9.7	1.4	30.5	19.2	11	54.5	42.0	12.5
	15.8	16.4	△0.6	19.8	22.1	△ 2.3	12.5	11.1	1.4	55.0	15.7	39	21.7	50.6	△ 28.9
7 上	15.4	16.7	△1.3	20.9	21.5	△ 0.6	10.0	12.2	△ 2.2	8.5	23.1	△ 15	58.8	38.3	20.5
	14.4	18.4	△4.0	19.7	23.4	△ 3.7	9.8	14.0	△ 4.2	3.5	39.6	△ 36	61.3	38.0	23.3
	18.8	19.7	△0.9	24.7	24.8	△ 0.1	13.5	15.3	△ 1.8	62.0	48.8	13	65.0	47.7	17.3
8 上	21.5	20.6	0.9	26.2	25.3	0.9	17.3	16.7	0.6	59.5	46.9	13	24.0	41.9	△ 17.9
	21.3	18.9	2.4	27.0	23.5	3.5	16.2	14.6	1.6	11.5	48.4	△ 37	51.9	47.1	4.8
	19.9	18.4	1.5	26.9	23.0	3.9	13.4	14.2	△ 0.8	0.5	43.1	△ 43	71.3	48.9	22.4
9 上	17.4	17.3	0.1	21.6	22.3	△ 0.7	13.9	12.5	1.4	97.5	40.7	57	28.6	45.4	△ 16.8
	16.4	15.	1.3	20.5	20.4	0.1	12.5	10.1	2.4	37.0	50.4	△ 13	29.0	45.4	△ 16.4
	13.0	12.7	0.3	19.4	18.0	1.4	6.6	7.6	△ 1.0	21.5	36.9	△ 15	59.1	49.7	9.4
10 上	11.8	10.9	0.9	18.4	16.4	2.0	6.4	5.9	0.5	11.5	46.4	△ 35	68.8	47.2	21.6
	6.7	8.7	△2.0	12.2	14.9	△ 2.7	1.9	2.7	△ 0.8	19.5	16.5	3	44.3	56.6	△ 12.3
	6.6	6.1	0.5	12.1	12.1	0.0	1.7	0.9	0.8	21.0	16.5	5	56.0	56.6	△ 0.6
11 上	3.1	4.5	△1.4	9.1	10.1	△ 1.0	-1.4	-0.6	△0.8	10.5	12.7	△ 2	54.7	47.5	7.2
	1.5	0.8	0.7	5.3	5.7	△ 0.4	-3.1	-3.7	0.6	18.5	15.1	3	27.0	42.0	△ 15.0

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10ヶ月の平均値である。

4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月.日	融雪 期 月.日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月.日	降雪 終 月.日	晩霜 月.日	初霜 月.日	無霜 期間 日数	降雪 始 月.日	農耕期間の積算(5月～9月)		
										平均温度 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	11.28	4.20	144	4.24	5.20	5.21	10.13	144	11.9	2389.3	497.5	722.3
平年	11.30	4.11	133	4.26	4.28	5.15	10.10	145	10.30	2385.6	491.5	700.9
比較	△ 2	9	11	△ 2	22	6	3	△1	10	3.7	6.0	21.4

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成18年9月播種） 作 況：不良

事 由：播種は平年より1～2日早く、出芽は2日程度早かった。9月下旬から10月上旬の降水量は平年より多く、特に10月7日から9日までの降水量は合計145.5mmに達した。10月中下旬の気温は平年並から低く推移したため、越冬前の生育は、草丈、茎数ともに平年を下回った。

根雪始は11月28日で平年より2日早く、融雪期は平年より9日遅い4月20日で、根雪期間は平年より11日長い144日間であった。雪腐病の発生は少なく、生育への影響は無かった。

融雪期から5月下旬まで気温は5月上旬を除き平年並か平年を下回った。6月上旬以降、高温多照で推移したが、出穂期は平年より1～3日遅れた。6月上旬以降の高温により、分けつの無効化が急速に進んだ。

6月下旬以降、概ね低温が続き、7月下旬には度重なる局地的な豪雨の影響を受け、登熟が緩慢となり、成熟期は平年より2～5日遅れた。「タクネコムギ」の一部、および「ホロシリコムギ」に「多～甚」の倒伏が発生した。

稈長は平年よりやや短く、穂長は平年並か平年よりやや長く、穂数は平年並か平年よりやや少なく、早生品種ほど穂数が少なかった。

千粒重は平年並か平年を下回った。豪雨の影響や倒伏の発生により、リットル重は中生品種ほど平年を下回った。子実重は平年より低く、早生品種ほど低収となった。穂数および千粒重が平年を下回ったことが影響したものと考えられた。

検査等級は「ホクシン」が1等、「タクネコムギ」「ホロシリコムギ」が2等であった。

以上のことから本年の作況は「不良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (平成18年月.日)	9.15	9.16	△ 1	9.15	9.17	△ 2	9.15	9.16	△ 1	
出芽期 (平成18年月.日)	9.22	9.23	△ 1	9.22	9.25	△ 3	9.22	9.24	△ 2	
出穂期 (平成19年月.日)	6.8	6.6	2	6.12	6.11	1	6.15	6.12	3	
成熟期 (平成19年月.日)	7.25	7.21	4	7.27	7.25	2	8.1	7.27	5	
草丈(cm)	(平成18年11月20日)	16.3	21.8	△5.5	16.5	19.6	△ 3.1	17.6	21.1	△ 3.5
	(平成19年5月20日)	33.5	41.8	△8.3	35.7	40.0	△ 4.3	37.1	44.3	△ 7.2
	(平成19年6月20日)	96.5	102.9	△6.4	89.8	91.3	△ 1.5	93.1	98.0	△ 4.9
茎数(本/㎡)	(平成18年11月20日)	1686	2137	△451	1515	1690	△ 175	1568	1807	△ 239
	(平成19年5月20日)	1263	1383	△121	1216	1376	△ 160	1388	1348	40
	(平成19年6月20日)	763	915	△152	662	781	△ 119	670	724	△ 54
稈長(cm) (成熟期)	86	97	△11	79	86	△ 7	90	97	△ 7	
穂長(cm) (成熟期)	7.5	7.4	0.1	8.8	8.1	0.7	8.9	8.3	0.6	
穂数(本/㎡) (成熟期)	714	871	△157	644	729	△ 85	624	638	△ 14	
子実重(kg/10a)	428	533	△105	548	621	△ 73	548	582	△ 34	
同上平年比(%)	80	100	△ 20	88	100	△ 12	94	100	△ 6	
リットル重(g)	809	808	1	799	816	△ 17	784	807	△ 23	
千粒重(g)	38.0	38.0	0.0	36.0	39.9	△ 3.9	41.5	43.5	△ 2.0	
品質(検査等級)	2	2	0	1	1	0	2	2	0	

注) 平年値は前7カ年中、「タクネコムギ」「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5カ年、「ホロシリコムギ」は平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5カ年の平均値。

「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

2) 秋まき小麦（平成19年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は9月18日に行った。出芽期は平年並の9月25日であった。出芽は良好であったが、9月25日に降雹があり出芽直後の鞘葉が2割程度折損したものの、その後生育に影響はなかった。

出芽期以降、気温は概ね平年並に推移し、越冬前の草丈および茎数は平年をやや下回っているが、主茎葉数は5.6枚、茎数は1,500本/m²弱で、越冬態勢としては十分な生育を確保している。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
播種期 (平成19年月.日)	9.18	9.18	0
出芽期 (平成19年月.日)	9.25	9.25	0
草丈(cm) (平成19年11月20日)	17.0	19.7	△2.7
茎数(本/m ²) (平成19年11月20日)	1471	1690	△219

注) 平年値は前7カ年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5カ年の平均値。播種量は255粒/m²。

3) 春まき小麦

作 況：平年並

事 由：融雪が遅れたため、播種期は4月23日で平年より2～3日遅かった。播種後は気温が平年並に推移し、出芽期は5月5日で平年並となった。

その後、5月中旬が低温、寡照傾向となったため、生育が遅れた。6月上・中旬は気温・日照時間とも平年を上回ったため、生育は回復傾向となり、草丈は平年並となり、茎数は平年を上回った。出穂期は平年より2～3日遅い6月24日であった。

6月下旬の多雨少照により、生育は旺盛となったが、やや徒長気味で稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年より多かった。7月下旬の局地的な豪雨により、「中」～「多」程度の倒伏が発生した。登熟は緩慢であったが、8月中旬の著しい高温により登熟が進み、成熟期は平年の4～6日遅れの8月12日であった。

倒伏の発生と8月中旬の著しい高温条件により、一穂粒数および子実の充実が不足となった。このため、リットル重、千粒重は平年を下回り、子実重は平年並となった。検査等級は平年並であった。

以上のことから本年の作況は「平年並」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	4.23	4.20	3	4.23	4.21	2	
出芽期 (月・日)	5.5	5.4	1	5.5	5.6	△ 1	
出穂期 (月・日)	6.24	6.21	3	6.24	6.22	2	
成熟期 (月・日)	8.12	8.8	4	8.12	8.6	6	
草丈 (cm)	(5月20日)	15.4	17.1	△ 1.7	16.3	15.9	0.4
	(6月20日)	66.9	65.5	1.4	67.1	65.9	1.2
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	354	460	△ 106	347	409	△ 62
	(6月20日)	842	646	196	858	683	175
稈長 (cm)	(7月20日)	86	80	6	92	83	9
穂長 (cm)	(7月20日)	8.0	8.0	0.0	8.2	8.2	0.0
穂数 (本/m ²)	(7月20日)	551	476	75	563	472	91
子実重 (kg/10a)		409	402	7	438	433	5
同上平年比 (%)		102	100	2	101	100	1
リットル重 (g)		787	817	△ 30	792	821	△ 29
千粒重 (g)		38.4	42.0	△ 3.6	39.5	42.9	△ 3.4
品質 (検査等級)		2	2	0	1	1	0

注) 「ハルユタカ」の平年値は過去7か年の内、平成12年(最凶年)、平成18年(最豊年)を除く5か年平均。「春よ恋」の平年値は過去6か年の内、平成14年(最凶年)、平成18年(最豊年)を除く4か年平均。

4) とうもろこし 作 況：良

事 由：播種期は平年より3日早かった。

出芽期以降は気温が平年に比べ高く推移したことから、6月20日の草丈・葉数ともに平年を上回った。

7月上中旬の低温により、7月20日の葉数は平年並で、草丈は平年をやや下回り、開花期・抽糸期ともに平年より4日遅れたが、8月中旬の高温で生育の遅れは回復し、8月20日の草丈は平年よりやや高く、葉数は平年並であった。

収穫期は平年より7日遅い9月26日で、収穫時の稈長は平年より高く、収穫時の熟度は平年並で、総体の乾物率は平年より高かった。乾物総重および推定TDN収量の平年比はともに118%であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.15	5.18	△ 3	
出芽期 (月.日)	6.3	5.29	5	
開花期 (月.日)	8.7	8.3	4	
抽糸期 (月.日)	8.6	8.2	4	
収穫期 (月.日)	9.26	9.19	7	
収穫期の熟度	黄熟初～中期	黄熟初～中期		
草丈 (cm)	(6月20日)	37.7	32.6	5.1
	(7月20日)	139.5	157.7	△ 18.2
	(8月20日)	306.6	293.0	13.6
稈長 (cm)	(9月20日)	277	261	16
葉数 (枚)	(6月20日)	5.2	4.6	0.6
	(7月20日)	11.9	12.2	△ 0.3
	(8月20日)	14.7	15.0	△ 0.3
生総重 (kg/10a)	6554	6487	67	
乾物茎葉重 (kg/10a)	1003	866	137	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1199	1000	199	
乾物総重 (kg/10a)	2203	1866	337	
同上平年比 (%)	118	100	18	
推定TDN収量 (kg/10a)	1603	1354	249	
同上平年比 (%)	118	100	18	
総体の乾物率 (%)	33.7	29.0	4.7	
乾雌穂重割合 (%)	54.4	53.7	0.7	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.4	0.6	

注) 平年値は前3か年の平均 (供試品種が変更されたため)。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：平年並

事 由：平年より1日早い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月以降高温に推移し、出芽期はほぼ平年並であった。

生育初期の気温は、6月中旬まで高温に、その後は低温に経過したが影響は小さく、初期生育及び開花始は概ね平年並であった。9月の着莢数はほぼ平年並であった。登熟期間の気温は平年並～やや高く推移し、成熟期は平年並～1日早く、「トヨコマチ」は9月26日、「ユキホマレ」は9月28日であった。

「トヨコマチ」は百粒重が平年をやや上回ったものの、9月25日の降雹により約1割の莢が裂莢したため、着莢数は13%少なく、子実重は平年より8%少なかった。「ユキホマレ」は、着莢数、百粒重共にほぼ平年並で、子実重は平年並であった。子実の品質は、「トヨコマチ」は青み粒、しわ粒の発生により平年より劣ったが、「ユキホマレ」はほぼ平年並であった。

子実重および品質が「トヨコマチ」は劣るが、当管内で栽培面積の多い「ユキホマレ」が平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.24	△ 1	5.23	5.24	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.7	6.7	0	6.7	6.8	△ 1	
開花始 (月.日)	7.19	7.20	△ 1	7.20	7.20	0	
成熟期 (月.日)	9.26	9.27	△ 1	9.28	9.28	0	
主茎長 (cm)	(6月20日)	11.7	9.2	2.5	12.0	7.8	4.2
	(7月20日)	48.6	39.9	8.7	46.5	39.2	7.3
	(8月20日)	64.9	59.0	5.9	57.2	58.2	△ 1.0
	(9月20日)	65.0	58.8	6.2	56.8	57.7	△ 0.9
	(成熟期)	65.0	58.8	6.2	56.8	57.7	△ 0.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.9	0.7	0.2	0.7	0.6	0.1
	(7月20日)	6.5	6.2	0.3	6.2	6.1	0.1
主茎節数	(8月20日)	11.9	11.1	0.8	10.7	10.9	△ 0.2
	(9月20日)	11.9	11.1	0.8	10.4	10.9	△ 0.5
	(成熟期)	11.9	11.1	0.8	10.4	10.9	△ 0.5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.8	2.4	0.4	2.6	2.1	0.5
	(8月20日)	6.5	5.7	0.8	6.4	5.0	1.4
	(9月20日)	5.9	5.5	0.4	5.8	4.8	1.0
	(成熟期)	5.9	5.5	0.4	5.8	4.8	1.0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	59.8	68.0	△ 8.2	69.2	62.4	6.8
	(9月20日)	61.3	64.5	△ 3.2	71.0	67.7	3.3
	(成熟期)	55.9	64.5	△ 8.6	71.0	67.7	3.3
子実重 (kg/10a)	312	338	△ 26	358	363	△ 5	
同上平年比 (%)	92	100	△ 8	99	100	△ 1	
百粒重 (g)	34.8	32.3	2.5	33.6	33.2	0.4	
屑粒率 (%)	1.0	0.6	0.4	0.9	1.7	△ 0.8	
品質 (検査等級)	特加	2下	—	3上	2下	—	

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 小豆

作 況：やや不良

事 由：平年より1日遅い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月以降高温に推移した。出芽期は平年より2～3日遅かったものの、出芽に要した日数はほぼ平年並であった。

生育初期の気温は、6月中旬まで高温に、その後は低温に経過し、初期生育は概ね平年並であった。しかし、開花始は「エリモショウズ」、「サホロショウズ」共に5日遅れた。その後は高温に推移し、「サホロショウズ」の着莢数は平年を上回ったが、「エリモショウズ」の着莢数は少なく推移した。登熟期間の気温は平年並～やや高く推移し、両品種共に成熟期は平年より7日早く、「サホロショウズ」の成熟期は9月15日、「エリモショウズ」は9月24日であった。

子実重の傾向は品種により異なり、「エリモショウズ」は、着莢数が平年より14%少なく、百粒重もやや軽かったことから、13%少なかった。「サホロショウズ」は、百粒重は平年より軽かったが、着莢数が17%上回っていたため、子実重は12%多かった。子実の品質は、「エリモショウズ」は色浅粒、過熟粒の発生により平年より劣り、「サホロショウズ」は過熟粒の発生によりやや劣った。

「サホロショウズ」は多収であるが、当管内で栽培面積の多い「エリモショウズ」が低収で品質が劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	エリモショウズ			サホロショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.22	1	5.23	5.22	1	
出芽期 (月.日)	6.10	6.8	2	6.10	6.7	3	
開花始 (月.日)	7.30	7.25	5	7.28	7.23	5	
成熟期 (月.日)	9.24	10.1	△ 7	9.15	9.22	△ 7	
主茎長 (cm)	(6月20日)	4.4	4.2	0.2	4.5	3.9	0.6
	(7月20日)	15.7	14.6	1.1	14.4	13.7	0.7
	(8月20日)	64.2	56.5	7.7	66.6	46.0	20.6
	(9月20日)	71.5	61.9	9.6	73.4	47.5	25.9
	(成熟期)	71.5	61.9	9.6	73.4	47.5	25.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.3	0.3	0.0	0.3	0.5	△ 0.2
	(7月20日)	5.6	5.4	0.2	5.5	5.3	0.2
主茎節数	(8月20日)	12.4	13.0	△ 0.6	12.0	11.2	0.8
	(9月20日)	13.1	13.6	△ 0.5	12.4	11.1	1.3
	(成熟期)	13.1	13.6	△ 0.5	12.4	11.1	1.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	1.6	1.1	0.5	1.9	1.8	0.1
	(8月20日)	6.6	4.3	2.3	7.1	4.3	2.8
	(9月20日)	5.9	3.5	2.4	5.5	3.8	1.7
	(成熟期)	5.9	3.6	2.3	5.5	3.8	1.7
着莢数 (個/株)	(8月20日)	28.5	32.1	△ 3.6	54.6	42.0	12.6
	(9月20日)	41.9	47.3	△ 5.4	56.1	47.0	9.1
	(成熟期)	41.9	48.7	△ 6.8	56.1	48.0	8.1
子実重 (kg/10a)	356	410	△ 54	383	341	42	
同上平年比 (%)	87	100	△ 13	112	100	12	
百粒重 (g)	13.6	16.1	△ 2.5	13.4	16.8	△ 3.4	
屑粒率 (%)	2.5	3.8	△ 1.3	2.3	5.7	△ 3.4	
品質 (検査等級)	規格外	3中	—	3中	2下	—	

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、18年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

7) 菜豆

作況：不良

事由：平年より1日遅い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月以降高温に推移し、出芽期はほぼ平年並であった。

生育初期の気温は、6月中旬まで高温に、その後は低温に経過した。初期生育は概ね平年並であったが、開花始は4日遅れた。その後は高温に経過し、着莢数は平年並に推移し、成熟期は「大正金時」が平年より1日早い9月3日、「福勝」が2日遅い9月10日であった。

成熟期の着莢数は平年並からやや多かったが、粒の肥大が全般に不十分で、百粒重が「大正金時」は平年より14%、「福勝」は13%軽く、屑粒に該当する充実不良粒が両品種共に発生した。また、着色不良粒や成熟期直前の降雨による色流粒の発生により、屑粒率が高かった。子実重は、「大正金時」は平年より21%、「福勝」は26%少なかった。子実の品質は「大正金時」は平年並、「福勝」は色流粒の発生により劣った。

以上のことから本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.22	1	5.23	5.22	1	
出芽期 (月.日)	6.8	6.6	2	6.8	6.7	1	
開花始 (月.日)	7.10	7.6	4	7.12	7.8	4	
成熟期 (月.日)	9.3	9.4	△ 1	9.10	9.8	2	
主茎長, 草丈 (cm)	(6月20日)	10.5	10.3	0.2	10.4	9.4	1.0
	(7月20日)	42.6	36.3	6.3	41.6	36.6	5.0
	(8月20日)	41.3	39.2	2.1	45.5	41.4	4.1
	(9月20日)	41.3	41.1	0.2	45.5	43.0	2.5
	(成熟期)	41.3	41.1	0.2	45.5	43.0	2.5
本葉数(枚)	(6月20日)	0.8	0.9	△ 0.1	0.9	0.9	0.0
	(7月20日)	3.3	3.4	△ 0.1	3.5	3.7	△ 0.2
主茎節数	(8月20日)	5.2	5.4	△ 0.2	5.4	5.8	△ 0.4
	(9月20日)	5.4	5.4	0.0	5.4	5.7	△ 0.3
	(成熟期)	5.4	5.4	0.0	5.4	5.7	△ 0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	4.3	4.1	0.2	4.7	3.9	0.8
	(8月20日)	5.4	4.6	0.8	5.7	4.2	1.5
	(9月20日)	4.9	4.2	0.7	5.0	4.0	1.0
	(成熟期)	4.9	4.2	0.7	5.0	4.0	1.0
着莢数(個/株)	(8月20日)	23.3	23.2	0.1	22.1	21.0	1.1
	(9月20日)	23.3	20.2	3.1	19.7	18.7	1.0
	(成熟期)	23.3	20.2	3.1	19.7	18.7	1.0
子実重(kg/10a)	264	336	△ 72	279	379	△ 100	
同上平年比(%)	79	100	△ 21	74	100	△ 26	
百粒重(g)	64.3	75.0	△ 10.7	79.4	91.3	△ 11.9	
屑粒率(%)	9.2	5.3	3.9	22.4	5.2	17.2	
品質(検査等級)	3上	3上	—	4中	3中	—	

注) 平年値は、前7か年中平成12年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ

作 況：平年並

事 由：植え付けは平年よりやや遅い5月14日に行った。植え付け後の5月中下旬の気温が極めて低く推移したことから、萌芽期はさらに遅れ、平年より「男爵薯」で7日、「コナフブキ」で5日遅かった。

萌芽後は、気温が高く推移し日照時間も多く、開花期は平年並となった。茎長は、「男爵薯」では6月下旬のまとまった降水と適度な温度条件により、平年を8cm上回ったが、「コナフブキ」では7月上旬中旬の干ばつの影響により、平年を8cm下回った。

枯凋期は、萌芽が遅かったもののその後の生育の進行が早く、平年より「男爵薯」で4日、「コナフブキ」で11日早くなった。

上いも重は、「男爵薯」ではほぼ平年並であり、「コナフブキ」では枯凋期が著しく早かったものの、9月上旬の十分な降水と、9月に入ってから塊茎肥大に適切な気温になったことを受け、平年比108%となった。でん粉価は「男爵薯」では平年をやや上回ったが、「コナフブキ」は9月の急速な塊茎の肥大により、平年を下回った。その結果、「コナフブキ」のでん粉重は平年並となった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.14	5.10	4	5.14	5.11	3	
萌芽期 (月.日)	6.6	5.30	7	6.6	6.1	5	
開花始 (月.日)	6.30	6.30	0	7.1	6.30	1	
枯凋期 (月.日)	9.2	9.6	△ 4	9.26	10.7	△ 11	
茎長 (cm)	(6月20日)	16.6	18.2	△ 1.6	20.1	16.4	3.7
	(7月20日)	43	35	8	60	64	△ 4
	(8月20日)	45	37	8	68	76	△ 8
茎数 (本/株)	(6月20日)	3.8	3.1	0.7	2.9	2.5	0.4
	(7月20日)	3.4	3.3	0.1	2.7	2.9	△ 0.2
	(8月20日)	3.0	3.2	△ 0.2	3.2	2.7	0.5
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	3827	4037	△ 210	3769	3493	276
	(9月20日)	—	—	—	5238	4313	925
でん粉価 (%)	(8月20日)	16.4	16.5	△ 0.1	21.0	21.6	△ 0.6
	(9月20日)	—	—	—	21.7	23.2	△ 1.5
でん粉重 (kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1083	956	127	
上いも数 (個/株)	8.6	9.1	△ 0.5	9.9	9.2	0.7	
上いも1個重 (g)	110	100	10	117	115	2	
上いも重 (kg/10a)	4183	4105	78	5111	4748	363	
同上平年比 (%)	102	100	2	108	100	8	
でん粉価 (%)	16.5	16.1	0.4	21.6	23.3	△ 1.7	
でん粉重 (kg/10a)	—	—	—	1054	1058	△ 4	
同上平年比 (%)	—	—	—	100	100	0	

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15年(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや不良

事 由：移植栽培の播種は平年より3日早い3月23日に行った。移植並びに直播栽培の播種は平年より2～3日遅い5月10日に行った。

初期生育はほぼ平年並であった。7月上中旬の低温で生育はやや抑制されたが、その後の高温・多雨で急速に回復し、平年を上回った。しかし、9月以降の登熟期には褐斑病の発生が目立ったうえに、9月25日の雹害で茎葉の損傷が大きく、糖分の上昇・根の肥大共に大きく抑制された。

収穫期は平年並の10月19日に行った。移植栽培の2品種平均の根重は平年比99%、根中糖分は95%、糖量は94%であった。直播栽培の根重は平年比105%、根中糖分は98%、糖量は103%であった。

以上のことから本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.23	3.26	△ 3	3.23	3.26	△ 3	5.10	5.8	2
移植期	(月.日)	5.10	5.7	3	5.10	5.8	2		—	
出芽期	(月.日)		—			—		5.21	5.19	2
収穫期	(月.日)	10.19	10.20	△ 1	10.19	10.19	0	10.19	10.19	0
草丈(cm)	(6月20日)	30.7	27.7	3.0	29.2	27.4	1.8	15.7	14.6	1.1
	(7月20日)	58.9	55.0	3.9	55.9	52.4	3.5	48.4	51.3	△ 2.9
	(8月20日)	69.9	63.1	6.8	64.9	58.9	6.0	68.4	62.9	5.5
	(9月20日)	69.8	64.6	5.2	63.2	60.0	3.2	69.4	65.0	4.4
生葉数(枚)	(6月20日)	12.1	11.6	0.5	11.8	11.1	0.7	5.8	7.5	△ 1.7
	(7月20日)	20.9	21.4	△ 0.5	19.6	19.9	△ 0.3	16.8	20.3	△ 3.5
	(8月20日)	26.6	27.7	△ 1.1	26.4	26.6	△ 0.2	25.7	26.0	△ 0.3
	(9月20日)	32.5	30.9	1.6	27.9	29.4	△ 1.5	27.2	28.6	△ 1.4
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	129	115	14	125	99	26	13	16	△ 3
	(7月20日)	757	656	101	661	612	49	421	497	△ 76
	(8月20日)	1045	919	126	965	920	45	1042	844	198
	(9月20日)	1079	956	123	1052	957	95	1024	827	197
根重(g/個体)	(6月20日)	22	22	0	21	19	2	1	2	△ 1
	(7月20日)	239	260	△ 21	239	277	△ 38	105	140	△ 35
	(8月20日)	593	588	5	671	615	56	485	449	36
	(9月20日)	951	856	95	976	882	94	828	715	113
根周(cm)	(7月20日)	20.6	21.3	△ 0.7	21.6	22.7	△ 1.1	16.5	17.5	△ 1.0
	(8月20日)	28.6	28.3	0.3	31.6	30.2	1.4	27.4	25.5	1.9
	(9月20日)	34.3	32.8	1.5	35.9	34.7	1.2	32.3	30.1	2.2
根中糖分(%)	(9月20日)	13.75	15.39	△ 1.64	13.97	15.26	△ 1.29	13.67	14.86	△ 1.19
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	6235	6415	△ 180	6389	6113	276.0	6173	4993	1180
根重(kg/10a)	(収穫期)	6419	6471	△ 52	6775	6863	△ 88	5916	5658	258
同上平年比(%)		99	100	△ 1	99	100	△ 1	105	100	5
根中糖分(%)	(収穫期)	16.81	17.42	△ 0.61	16.90	18.02	△ 1.12	16.68	17.02	△ 0.34
同上平年比(%)		96	100	△ 4	94	100	△ 6	98	100	△ 2
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1079	1125	△ 46	1145	1234	△ 89	987	955	32
同上平年比(%)		96	100	△ 4	93	100	△ 7	103	100	3

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成12年(最凶)および17年(最豊)、移植「アーベント」は平成12年(最凶)および16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)および16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧 草 作 況：不良

事 由：萌芽期は平年より6日遅い4月23日で、冬損程度は平年並であった。

1 番草は、出穂始は2日遅く、出穂期および収穫時の草丈は平年並であったが、乾物収量は平年の87%であった。これは萌芽期が平年より遅く、1 番草までの生育日数が短かったこと、6月上旬が平年より高温少雨で推移し、湿潤条件に適するチモシーの生育が停滞したこと等によると考えられた。

2～3 番草の乾物収量はそれぞれ平年の70%、83%と少なく、これは前番草刈取後の再生期に当たる7月上中旬および8月中下旬がいずれも少雨に経過し、再生が不良となったためと考えられた。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期 (月.日)		4.23	4.17	6
冬損程度		1.5	1.4	0.1
被度 (%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	99	1
出穂始 (月.日)		6.14	6.12	2
出穂期 (月.日)		6.19	6.18	1
出穂程度 1番草		5.0	5.7	△ 0.7
節間伸長程度 2番草		2.0	3.5	△ 1.5
刈取日(月.日)	1番草	6.20	6.19	1
	2番草	8.8	8.8	0
	3番草	10.2	10.6	△ 4
倒伏程度 1番草		1.0	2.5	△ 1.5
病害罹病程度	1番草	1.5	1.5	0.0
	2番草	4.0	3.3	0.7
	3番草	4.0	4.3	△ 0.3
草丈(cm)	(5月18日)	37	38	△ 1
	(6月5日)	68	74	△ 6
	1番草	106	100	6
	2番草再生時	35	36	△ 1
	2番草	44	65	△ 21
	3番草再生時	42	42	0
生草収量(kg/10a)	3番草	41	46	△ 5
	1番草	2563	2918	△ 355
	2番草	725	1054	△ 329
	合 計	3731	4687	△ 956
乾物率 (%)	1番草	22.7	23.7	△ 1.0
	2番草	22.2	22.5	△ 0.3
	3番草	32.4	25.6	6.8
乾物収量(kg/10a)	1番草	582	671	△ 89
	2番草	162	233	△ 71
	3番草	144	173	△ 29
	合 計	888	1076	△ 188

注) 平年値は前5か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

冬損程度は1:無または微～9:甚。

倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ

作 況：やや良（参考）

事 由：播種は晩生種「スーパー北もみじ」では平年より4日早い3月8日、早生種「改良オホーツク1号」では平年より6日早い3月2日に行った。育苗期間中はやや低温に推移したが苗生育は順調であった。移植は「スーパー北もみじ」では平年より2日早い5月11日、「改良オホーツク1号」では平年より8日早い5月6日に行った。移植時の苗質は2品種ともほぼ平年並であった。移植後の5月下旬は適度な降雨もあり生育は順調に進んだ。

6月下旬の低温により生育は一時停滞したが、7月下旬から8月上旬にかけて気温が平年並に経過し、適度な降雨もあったことから茎葉の生育および球肥大は順調であった。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より2日遅い8月5日、「スーパー北もみじ」では平年より5日遅い8月18日であった。

「改良オホーツク1号」は、平均一球重と総収量が平年対比で約50%上回ったが、変形球と分球の発生が多く、規格内収量は平年対比で12%上回るにとどまった。「スーパー北もみじ」は、平均一球重は平年を上回ったが、肌腐症状等の激発（約15%）により総収量はほぼ平年並となった。また、変形球と分球の発生がやや多かったために規格内率は平年より下がり、規格内収量は平年対比で4%下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.2	3.8	△ 6	3.8	3.12	△ 4	
出芽期 (月.日)	3.15	3.20	△ 5	3.21	3.25	△ 4	
移植期 (月.日)	5.2	5.10	△ 8	5.11	5.13	△ 2	
球肥大期 (月.日)	7.5	7.8	△ 3	7.22	7.21	1	
倒伏期 (月.日)	8.5	8.3	2	8.18	8.13	5	
枯葉期 (月.日)	8.27	8.25	2	9.15	9.8	7	
収穫期 (月.日)	8.29	9.3	△ 5	9.18	9.14	4	
草丈 (cm)	移植時	24.0	25.5	△ 1.5	23.5	23.0	0.5
	(6月20日)	59.9	38.2	21.7	45.0	32.3	12.7
	(7月20日)	85.7	70.9	14.8	87.5	77.3	10.2
生葉数 (枚)	移植時	3.1	3.1	0.0	3.5	3.0	0.5
	(6月20日)	8.3	5.5	2.8	7.2	5.4	1.8
	(7月20日)	10.2	9.1	1.1	11.1	10.3	0.8
葉鞘径 (mm)	移植時	3.9	4.2	△ 0.3	4.2	4.0	0.2
	(6月20日)	14.3	9.1	5.2	10.1	8.0	2.1
	(7月20日)	21.8	18.6	3.2	24.1	20.1	4.0
葉身生重 (g)	(7月20日)	168.5	91.6	76.9	181.3	112.5	68.8
球生重 (g)	(7月20日)	140.1	88.2	51.9	67.1	46.6	20.5
	(8月20日)	340.7	222.9	117.8	276.9	247.7	29.2
葉身乾物率 (%)	(7月20日)	8.2	8.6	△ 0.4	8.4	8.1	0.3
総収量 (kg/10a)		9507	6671	2836	8228	8105	123
規格内収量 (kg/10a)		6680	5969	711	6590	6862	△ 272
同上平年比 (%)		112	100	12	96	100	△ 4
規格内率 (%)		70	90	△ 20	75	84	△ 9
平均一球重 (g)		332	212	120	312	257	55

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年から平成18年までの4カ年の平均。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反覆	前作物	畦幅 cm	株間 cm	一株 本数	播種粒数 粒/㎡	播種量 kg/10a	株数 株/10a
1. 秋まき小麦	6.0	4	緑肥シロカラシ	30.0	条播	-	340 (255)	-	-
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥シロカラシ	30.0	条播	-	340	-	-
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	-	-	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥えん麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	とうもろこし	75.0	30.0	1	-	-	4,444
8. てん菜	100	3	ばれいしょ	60.0	23.8	1	-	-	7,003
9. チモシー	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	-	-	2.0	-
10. たまねぎ	10.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	31,750

注) 秋まき小麦の播種粒数欄の () は「ホクシン」の播種粒数を示す。

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦	6+3	20.0	9.6	4.0			
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0			
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル:100	
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0			
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
6. 菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3			
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0			
8. てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0			
9. チモシー	15.0	15.0	15.0	2.3			2年目草地
10. たまねぎ	15.0	31.0	15.0	2.8	2,000		